

沖縄舞踊に見る三要素

折口信夫

青空文庫

沖繩の舞踊は、全体に、今常識的に、まひと稱してゐるものと、をどりと稱してゐるものとを兼ね備へてゐる。此、まひの要素は、古い、おもしろあそび（巫女の鎮舞）の系統に、やまとの舞ひぶりを加へてゐる様だ。をどりといふべきものは、南島の更に南海のあまたの島々のものを明らかに印象してゐる。而も、此中間に立つ舞踊が多い。やまとの緩やかな舞ひを南島流の早間に踊るものである。等しく踊りというても、間を緩やかにするものが上品だと考へられたらしく、さうしたものが次第に殖えて行つたのであらう。此島にも、あそびとをどりとの間に位づけが出来てゐたのである。だが、此はやまとの檢校流の奏樂法や樂器など、共に

伝へた、後のものが多からう。其以外、古く這入つた千秋万歳のことほぎ系統に属するものが、極めて多く残つてゐるが、それらは皆、やまとの万歳に見られぬ程の早さながら、日本の舞ひぶりが基調になつてゐることは、その服装以上に明らかである。だから、私は思ふ。念仏聖の念仏踊りや万歳舞ひを見た事は、島人の踊りの上に非常な動乱であつた。さうして、茲に琉球の踊りは、在来の託遊式のあそびに近い、而もある観念と感情とを備へたものらしくなつたのである。其後、江戸への朝聘、鹿児島との交渉が生じてからは、盛んに新しい使ひを迎へ送るやうになつて、やまと音楽と共に、舞ひや踊りが這入つて来たのは勿論、さうして第二期の整理が行はれたと見てよい。

沖繩の踊りを通じて見られるものは、此三種の融合し或は混淆したものである。が、その特色とする所は、手の使ひ方・上体の動し方・足の踏み方・踊りの間のきり方などに、現れ過ぎるほど現れてゐる、固有のふりである。支那舞踊の影響は、今の処、私にはありさうに思はれない。同様に、能や歌舞妓の所作事など、も、交渉はないと見てよいと思ふ。

青空文庫情報

底本：「折口信夫全集 21」中央公論社

1996（平成8）年11月10日初版発行

底本の親本：「折口信夫全集 第十七卷」中央公論社

1967（昭和42）年3月25日発行

初出：「新舗道 第二巻第五号」

1936（昭和11）年5月発行

※底本の題名の下に書かれている「昭和十一年五月「新舗道」第二巻第五号」はファイル末の「初出」欄に移しました。

入力：門田裕志

校正：フクポー

2019年6月28日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<https://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

沖縄舞踊に見る三要素

折口信夫

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>